



八千目録

早稲田大学図書館
文書 27
A 79



卯

二十四年

野際園地梅花名及特示留力人西行年考

長持十五白無痕研似長江共月潭

飛隼還遠三月雪春風吹度水晶村

午政三年庚辰春三月

午政巳丑春三月

泉田抄書

一月十五日 三十
明徳廿二年 日記

二月
廿四年

神武天皇即位紀元二千五百四十九年

明治廿二年

己丑平年

懷中日記

泰西一千八百八十九年

清國光緒十五年

懷中日記序

予曾テ佛國千八百七十八年ノ新日記簿ヲ外
 人某氏ニ得タリ即チ一歲中ノ日記簿ニシテ
 紀事及日計月計ヨリ年計ニ至ル迄ノ位地ヲ
 設ケ之ニ繫ルニ新古雜錄ヲ以テセリ因テ今
 其體式ニ倣ヒ以テ是書ヲ編ス庶幾クハ人々
 日々ノ紀事ト會計トヲ明カニシ年間ノ閱歷
 ヲ異日ニ見ルノ便ヲ得セシメント云爾

明治十二年十二月 印刷局長誌

明 治 二 十 二 年 略 曆											
陰曆	潮		干		日		七值	節	二		己
	後	前	後	前	入	出			十	十	
戊子十一月三十日	九分	一分	四分	四分	四分	六分	丁	火	大寒	五日前	丑
己丑正月二日	〇分	〇分	六分	五分	五分	六分	戊	金	雨水	三日前	申
正月三十日	一分	一分	五分	四分	五分	六分	丙	金	春分	五日後	子
三月二日	〇分	〇分	六分	六分	六分	五分	丁	月	穀雨	四日後	未
四月二日	〇分	〇分	六分	六分	六分	四分	丁	水	小滿	五日後	丑
五月三日	一分	〇分	七分	六分	六分	四分	戊	土	夏至	五日後	申
六月四日	一分	一分	七分	七分	六分	四分	戊	月	大暑	七日前	寅
七月五日	二分	一分	八分	八分	六分	四分	己	木	處暑	七日後	酉
八月七日	二分	二分	九分	八分	六分	五分	庚	日	秋分	七日後	辰
九月七日	三分	二分	九分	九分	五分	五分	庚	火	霜降	八日前	戌
十月九日	五分	四分	一分	七分	四分	六分	辛	金	小雪	七日後	巳
十一月九日	六分	五分	〇分	〇分	四分	六分	辛	日	冬至	七日前	亥

丑丁 日 一 月 一 曜火

刑法治罪法ヲ施行ス
明治十五年

寅戌 日 二 月 一 曜水

各國公使等朝見新正ヲ賀ス是ヲ外國公使
朝賀ノ始トス
明治十五年

二 其

新 月	滿 月	日 曜 日	大 祭 祝 日	氣 節 月	節 分	入 梅	半 夏 生	二 百 十 日
一月	三十日	廿六日	四方拜元始祭新年宴會孝明天皇紀元節春季祭神武天皇秋季祭神嘗祭天皇長節新嘗祭	二月	二月二日	六月十一日	七月二日	八月廿一日
二月	○	廿三日		三月	三月十七日	三月二十三日	七月十九日	十月廿一日
三月	三十一日	廿四日		四月	四月十七日	四月十七日	七月十九日	十月廿一日
四月	三十日	廿五日		五月	五月一日	五月一日	七月十九日	十月廿一日
五月	三十日	廿六日		六月	六月十七日	六月十七日	七月十九日	十月廿一日
六月	廿八日	廿七日		七月	七月十七日	七月十七日	七月十九日	十月廿一日
七月	廿八日	廿八日		八月	八月十七日	八月十六日	七月十九日	十月廿一日
八月	廿六日	廿九日		九月	九月十七日	九月廿日	七月十九日	十月廿一日
九月	廿五日	三十日		十月	十月十七日	十月十五日	七月十九日	十月廿一日
十月	廿四日	三十一日		十一月	十一月十七日	十一月十七日	七月十九日	十月廿一日
十一月	廿三日	初一日		十二月	十二月十七日	十二月十四日	七月十九日	十月廿一日
十二月	廿二日	初九日					七月十九日	十月廿一日

○時ハ明治十九年七月十二日ノ勅令ニ遵ヒ本邦標準時即チ英國グリニツチ東經百三十五度ノ子午線時ヲ以テ之ヲ示ス

土曜 一 月 五 日 辛巳

始メテ占星臺ヲ起ス天武三年楠正行四條
畷ニ戦死ス正平三

日曜 一 月 六 日 壬午

公卿ノ涅齒點眉古制ニ非サルヲ以テ必シ
モ循守セサルヲ令ス明治元

木曜 一 月 三 日 己卯

始テ元始祭ヲ行フ明治五各種ノ勲章等級製
式及大勲位菊花頸飾ノ製式ヲ公布セラ明治卅一

金曜 一 月 四 日 庚辰

八日以下ノ五節ヲ廢シ神武天皇即位日天
長節ヲ以テ祝日ト爲ス明治六

月 曜 一 月 七 日 癸 未

始メテ武内宿禰ヲ以テ大臣ト爲ス
成務三年

火 曜 一 月 八 日 甲 申

小學生徒ノ學齡(滿六年ヨリ十四年ニ至ル)ヲ定ム
明治八年

水 曜 一 月 九 日 乙 酉

修史館ヲ廢シ内閣ニ臨時修史局ヲ置ク
明治十九

木 曜 一 月 十 日 丙 戌

始メテ東京琉球ノ間ニ郵船ヲ通ス
明治七年

金曜 一月十一日 丁亥

武藏國秩父郡和銅ヲ獻ス宣詔シテ元ヲ改
元和銅

朝宴
今日
通事
物
以
退
夜
日
想
長
政
時
西

土曜 一月二十日 戊子

始メテ楮幣ヲ用フ
元建武

退下
不
若
只
吹
不
可
德

日曜 一月十三日 己丑

吳工女漢織吳織等始メテ來ル
源賴朝薨ス
元治

休日

可祝退下

老
某
子
鴨
を
採
り

月曜 一月十四日 庚寅

陸軍部内ニ憲兵ヲ設ク
明治

出勤

退下
漸
二
日
漸
少

土曜 一月十九日 乙未

江戸大火 三明曆

乳真湯忍
西園南カ分行

可脱退下

以秋夢思

日曜 一月二十二日 丙申

源義仲戦死ス 元曆 諸道ノ關門ヲ廢ス 二明治

法公傳略

勝元傳略

長政 兼治 上坊 兼行

月曜 一月廿一日 丁酉

爵位號ヲ改メ階級ヲ増加ス 天武天皇十三年

出部 後白河院

内村 菅原 藤原

大八の女 状 書

信公 傳

火曜 一月廿二日 戊戌

金穀ノ進獻ヲ停ム 明治五年

出部

公印 宗 城 五 勢 西

外務省 田邊 大八 北 新

日曜 一月廿七日 癸卯

御諱缺畫ノ制ヲ廢ス 明治五

大御所ノ御諱ニシテ
御名ノ御名ニシテ
御名ノ御名ニシテ
御名ノ御名ニシテ

御名ノ御名ニシテ

月曜 一月廿八日 甲辰

古事記ヲ上ル 和銅五

古事記ノ御名ニシテ
古事記ノ御名ニシテ
古事記ノ御名ニシテ
古事記ノ御名ニシテ

火曜 一月廿九日 乙巳

卒ノ世襲スルモノヲ士族ト爲ス 明治五

卒ノ世襲スルモノヲ士族ト爲ス
卒ノ世襲スルモノヲ士族ト爲ス
卒ノ世襲スルモノヲ士族ト爲ス

水曜 一月三十日 丙午

東京郭内ノ疆界ヲ改定ス 明治四

東京郭内ノ疆界ヲ改定ス
東京郭内ノ疆界ヲ改定ス
東京郭内ノ疆界ヲ改定ス

地方官ニ令シ戊辰己巳ノ役戦死者ノ墳墓
ヲ修繕シ荒廢スル勿ラシム明治七

出藝前ノ法ハ彼時
法門ノ修養ノ元見多
和氣ノ修養ノ元見多
和氣ノ修養ノ元見多
和氣ノ修養ノ元見多

以上二十二年一月迄

一百
一百
一百
一千田

日律
長谷武
地代考分
埋込分

一月會計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
殘高				
比較合計				

日曜 二月 一日 戊申

詔シテ國郡ニ長ヲ立テ縣邑ニ首ヲ置ク
成務
天皇
四年

二十四年

月曜 二月 二日 己酉

文部省女子師範學校ヲ東京ニ創建ス
明治
八年

大石良雄等ニ死ヲ賜フ
十元
大祿

日曜 二月 三日 庚戌

丁抹公使支那日本ノ海底ニ電信線ヲ設ケ
明
治
四年

日曜 二月 四日 辛亥

大石良雄等ニ死ヲ賜フ
十元
大祿

寅甲 日 七 月 二 曜

復讐嚴禁ヲ令ス
明治十六

卯乙 日 八 月 二 曜

開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置ク
明治十五

子壬 日 五 月 二 曜

車駕京都大阪間ノ鐵道開業式ニ臨ム
明治十

丑癸 日 六 月 二 曜

國書封囊ノ緘草ヲ定ム
明治十一

戊午 日 一 十 月 二 曜 水

紀元節祝砲ノ儀ヲ行フ後チ恒例トナス
七明治

紀元節
十月一日
明治

己未 日 二 十 月 二 曜 木

東京金銀座ヲ廢ス
二明治

出動

退下年終事務
金銀座
明治

丙辰 日 九 月 二 曜 火

參議兼内務卿大久保利通ニ命シ佐賀ノ賊ヲ鎮撫セシム
七明治

大久保利通

丁巳 日 十 月 二 曜 火

詔シテ國史ヲ撰ス
七和銅

出動
國史撰

金曜

二月十三日庚申

平民ニ命シテ氏ヲ稱シ其詳ナラサルモノ
ハ新ニ之ヲ設ケシム明治八年

有朝臣者内大臣ニ命シ
送外日ク内府官得度方凡
送外日ク内府官得度方凡
送外日ク内府官得度方凡

土曜

二月十四日辛酉

美濃國大水死スル者二萬餘人民戸流亡ス
ル者數萬家天文四年

出勅
連下常昭御阿坂金田家
奉旨御尋見不見家
奉旨御尋見不見家
奉旨御尋見不見家

日曜

二月十五日壬戌

應神天皇崩ス十四年
土地賣買ノ禁ヲ解ク明治五年

應神天皇崩ス十四年
土地賣買ノ禁ヲ解ク明治五年
應神天皇崩ス十四年
土地賣買ノ禁ヲ解ク明治五年

日曜

二月十六日癸亥

僧西行京師ニ卒ス年七十三建久元年

僧西行京師ニ卒ス年七十三建久元年
僧西行京師ニ卒ス年七十三建久元年
僧西行京師ニ卒ス年七十三建久元年

證券印紙ヲ發行ス 明治

出却

後有、子回、
新吉、日東、
共濟、
陶器、
出却、
芳木、

大 曜 二 月 十 七 日 甲 子

琉球藩ノ三司官池城安規等東京ニ來ル 明治

後有、
琉球藩、
三司官、
池城安規、
等、
東京、
ニ來ル、
明治

大 曜 二 月 十 八 日 乙 丑

大鹽平八郎亂ヲ大阪ニナス 天保

大鹽平八郎、
亂ヲ、
大阪、
ニナス、
天保

木 曜 二 月 十 九 日 丙 寅

萩生金谷先人徂徠ノ遺書度量衡考ヲ幕府ニ獻ス 享保

大 曜 二 月 十 二 日 丁 卯

萩生金谷先人、
徂徠ノ、
遺書、
度量衡考ヲ、
幕府ニ、
獻ス、
享保

辰戌 日 一 廿 月 二 曜 土

源家康ニ東照大權現ノ號ヲ贈ラル 元和 三

如所

手紙
源家康
東照大權現
號ヲ贈ラル
元和 三

辰戌 日 一 廿 月 二 曜 土

午庚 日 三 廿 月 二 曜 月

天皇地方官會議院へ臨御 明治 十三

出物
御用
御用
御用

御賞金三百大八

御賞金
御賞金
御賞金

巳己 日 二 廿 月 二 曜 日

陸奥始メテ黄金ヲ獻ス 天不感 實元 衆庶ニ民事訴訟審判ノ傍聽ヲ許ス 明治 八

陸奥始メテ黄金ヲ獻ス
天不感 實元
衆庶ニ民事訴訟審判ノ傍聽ヲ許ス
明治 八

後醍醐天皇隱岐ヲ出ヅ 元弘 三 閏月

出物
御用
御用
御用

御賞金
御賞金
御賞金

御賞金
御賞金
御賞金

申壬 日 五 廿 月 二 曜舟

菅原道真薨ス 三延喜

菅原道真公薨御事
延喜三年五月廿五日
菅原道真公薨御事
延喜三年五月廿五日
菅原道真公薨御事
延喜三年五月廿五日

酉癸 日 六 廿 月 二 曜火

綏靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見ス 十一明治

綏靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見ス
明治十一年
綏靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見ス
明治十一年

戌甲 日 七 廿 月 二 曜水

外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ清國ニ差遣ス 六明治

外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ清國ニ差遣ス
明治六年
外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ清國ニ差遣ス
明治六年

亥乙 日 八 廿 月 二 曜木

富士山噴火ス 三永保 兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク 五明治

富士山噴火ス 永保三年 兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク 明治五年
富士山噴火ス 永保三年 兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク 明治五年
富士山噴火ス 永保三年 兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク 明治五年

申壬 日 五 廿 月 二 曜舟

菅原道真薨ス 三延喜

Handwritten text in cursive script, likely a record of the death of Sugawara no Michizane, dated 10th day of the 2nd month, 10th year of En'nyu.

酉癸 日 六 廿 月 二 曜火

綏靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見ス 十一明治

Handwritten text in cursive script, reporting the discovery of the tomb of Emperor Suinin in the 11th year of Meiji.

水曜

外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ清國ニ差遣ス 六明治

Handwritten text in cursive script, detailing the appointment of Nomura Masamune as a plenipotentiary minister to the Qing Empire.

亥乙 日 八 廿 月 二 曜木

富士山噴火ス 三永保 兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク 五明治

Handwritten text in cursive script, reporting the eruption of Mount Fuji and the reorganization of the Ministry of War and Navy.

申 壬 日 五 廿 月 二 曜 月

菅原道真薨ス
三延喜

菅原道真公薨御
九月廿五日
公薨御時年
七十八
公薨御時
十月十日
公薨御時
十一月十日
公薨御時
十二月十日
公薨御時
正月十日
公薨御時
二月十日

酉 癸 日 六 廿 月 二 曜 火

綏靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見
ス
十一治

政府同意飛特
六百五十五
公薨御時
十月十日
公薨御時
十一月十日
公薨御時
十二月十日
公薨御時
正月十日
公薨御時
二月十日

水 曜

外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ清
國ニ差遣ス
六明治

公十八人
候二十人
伯十八人
子三十人
子三十人
子三十人

公十八人
候二十人
伯十八人
子三十人
子三十人
子三十人

水 曜

富士山噴火ス
三永保
兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク
五明治

公十八人
候二十人
伯十八人
子三十人
子三十人
子三十人

子丙 日 一 月 三 曜

加賀國ヲ置ク弘仁
江戸城ヲ改築ス
一慶一長

元田勝
紅蓮
の
用

丑丁 日 二 月 三 曜

鑄錢司ヲ置ク
持統天皇八年

出
土
官

二 月 會 計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
總計				
殘高				
比較合計				

日曜 三月三日 戊寅

水戸浪士井伊直弼ヲ櫻田門外ニ殺ス 萬延元

沖田集... 七日... 吉井不來... 帝... 吉... 三... 大...

日曜 三月四日 己卯

江戸大火 文化三

江戸大火... 雨... 吉... 大...

日曜 三月五日 庚辰

太政官中會計検査院ヲ置ク 明治十三年

出部 早退

早退... 大...

日曜 三月六日 辛巳

備前讃岐間ノ海底電信線成ル 明治十三年

備前讃岐間ノ海底電信線成ル... 早退... 大...

壬午 日 七 月 三 曜 木

新羅始メテ朝貢ス神功皇后
攝政五年
神武天皇即位日ヲ紀元節ト稱ス明治

長治元年
長治元年
長治元年
長治元年
長治元年

癸未 日 八 月 三 曜 金

始テ度量ヲ天下ニ頒ツ大寶

始テ度量ヲ天下ニ頒ツ
始テ度量ヲ天下ニ頒ツ
始テ度量ヲ天下ニ頒ツ
始テ度量ヲ天下ニ頒ツ
始テ度量ヲ天下ニ頒ツ

甲申 日 九 月 三 曜 土

高山正之二正四位ヲ贈リ神號ヲ高山神社
ト賜フ明治
十一

出勤

定例ありて下田在りて
新訂ありて二正四位
内廷ありて
不連

乙酉 日 十 月 三 曜 日

天照大神祠ヲ伊勢ニ建ツ垂仁
廿五年天皇

出勤

長政公来一
長政公来一
長政公来一
長政公来一
長政公来一

戊丙 日 一 十 月 三 曜 月 水

神武天皇崩ス 七十年平重盛薨ス 治承 三

出勤

老并の... 三月... 出勤

亥丁 日 二 十 月 三 曜 木

上杉輝虎卒ス 天正 一六日ノ休暇ヲ日曜日ニ更ム 明治 九

出勤... 老并... 三月...

子戊 日 三 十 月 三 曜 金

出勤... 三月... 出勤

丑己 日 四 十 月 三 曜 土

外國人トノ婚嫁ヲ許ス 明治 六 海防費補助トシ
テ宮禁ノ儲餘三拾万圓支出ノ勅諭アリ 明治 二十

出勤... 三月... 出勤

日曜 三月十五日 庚寅

洋文ヲ洋紙ニ書スルノ外公文ニ洋製「イ
ンキ」ヲ用ルヲ禁ス明治

明者如風又星也
十日と国体
多由國志
下海
七年七月五日
山縣
此等
此等

日曜 三月十六日 辛卯

桓武天皇千年忌ヲ延曆寺ニ修ム文化

出物
日所経
大八
此等
此等
此等
此等
此等

日曜 三月十七日 壬辰

宮中ニ制度取調局ヲ置ク明治

大山
此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等

日曜 三月十八日 癸巳

外国人ノ我學校ニ入學スルヲ許ス明治

此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等
此等

所得税法公布セラル 明治二十

税頭後、明治十... 勤者、其... 白... 漢... 夜... 考... 日... 多...

婦女ノ罪犯ニ棒鎖ヲ用フルヲ禁ス 明治十八

十... 海... 香... 三... 取... 大...

始メテ新令ニ依テ官名位號ヲ改ム 大寶 江戸大火 文政十二

今... 雨... 正... 代... 下... 沢... 八...

午... 為... 四十三

大政維新ノ旨ヲ朝鮮ニ報ス 明治元

出動御軍兵ノ事ハ
朝鮮ニ報ス

忠告ノ書状亦未ダ返雪沙清ニ

雪花片ハ實ニ喜アリ

上野御所ニ御座ルニ

井ノ上御所ニ御座ルニ

元不感事ニ及入シ又不感事大限迄

△

戊戌 日 三 廿 月 三 曜 卯

亥己 日 四 廿 月 三 曜 卯

源義經大ニ平氏ヲ壇浦ニ敗ル 文治元
信濃地大ニ震フ 弘化四
天皇御即位

天皇御即位ノ事
信濃地大ニ震ル
源義經大ニ平氏ヲ壇浦ニ敗ル
大御所御即位

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ 文祿元

電信中央局ヲ東京ニ置ク 明治十

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ 文祿元

子庚 日 五 廿 月 三 曜 卯

丑辛 日 六 廿 月 三 曜 木

午時急用ノ事ニ
電信中央局ヲ東京ニ置ク
明治十

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ
文祿元

大正由黒田西條梅山村村長

大政維新ノ旨ヲ朝鮮ニ報ス 明治元

出動... 朝鮮... 報ス

忠告... 書札... 雪花...

戊戌 日 三 廿 月 三 曜 卯

雪花... 書札... 忠告... 出動...

亥巳 日 四 廿 月 三 曜 卯

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ 元祿

源義經大平氏ヲ壇浦ニ敗ル 元文
信濃地大ニ震フ 弘化
天皇御行幸...

子庚 日 五 廿 月 三 曜 卯

電信中央局ヲ東京ニ置ク 明治十

午時... 電信... 中央局...

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ 元祿

曜 木

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ 元祿

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ 元祿

大正... 田... 山...

壬寅 日 七 廿 月 三 曜 土

始テ新聞紙ヲ各府縣ニ頒布ス明治

始テ新聞紙ヲ各府縣ニ頒布ス
明治五
心ヲ人ニ奪フ國體ヲ保
後亦之ヲ為ス

卯癸 日 八 廿 月 三 曜 土

大禮服并軍人等制規アル服着用ノ外廢刀
ヲ布告ス明治

大禮服并軍人等制規アル服着用ノ外廢刀
ヲ布告ス明治
知事ハ之ヲ
奉行奉祝ハ
此ノ旨ニ
若シテハ
真正禮ノ收儀
トモナリ
於テハ之ヲ
之ヲ
之ヲ

辰甲 日 九 廿 月 三 曜 土

諸標榜等ニ禁裡ノ字ヲ冒シ及菊章ヲ濫用
スルヲ禁ス明治

諸標榜等ニ禁裡ノ字ヲ冒シ及菊章ヲ濫用
スルヲ禁ス明治
此ノ旨ニ
奉行奉祝ハ
此ノ旨ニ
若シテハ
真正禮ノ收儀
トモナリ
於テハ之ヲ
之ヲ
之ヲ

巳乙 日 十 三 月 三 曜 土

郵船ヲ清國上海及ヒ其近傍ノ地ニ通スル
ヲ布告ス明治

郵船ヲ清國上海及ヒ其近傍ノ地ニ通スル
ヲ布告ス明治
知事ハ之ヲ
奉行奉祝ハ
此ノ旨ニ
若シテハ
真正禮ノ收儀
トモナリ
於テハ之ヲ
之ヲ
之ヲ

郵船ヲ清國上海及ヒ其近傍ノ地ニ通スル
ヲ布告ス明治
四十七

始テ新聞紙ヲ各府縣ニ頒布ス
明治五

Handwritten text in vertical columns, likely a notice or report.

大禮服并軍人等制規アル服着用ノ外廢刀
ヲ布告ス
明治九

Handwritten text in vertical columns, likely a notice or report.

諸標榜等ニ禁裡ノ字ヲ冒シ及菊章ヲ濫用
スルヲ禁ス
明治元

Handwritten text in vertical columns, likely a notice or report.

郵船ヲ清國上海及ヒ其近傍ノ地ニ通スル
ヲ布告ス
明治八

Handwritten text in vertical columns, likely a notice or report.

Handwritten text on the left margin, possibly a date or reference.

午丙 日 一 十 三 月 三 曜 秋

是月本願寺ノ僧一寺ヲ江戸ノ築地ニ建ツ
八延寶

出動初吉井ノ見ハ情ノ都モ
也リノ妙ハ心ノ上ノ箱ノ以
山縣村ノ内ノ道ノ寺ノ
局長ノ外ハ非見ホ不存分地
加ヘトト大臣ノ有實運
退下ホカノ見ハシヤリホ止
同有在ノ中徳満ハホカ
九高吉丹ノ行ノ口榮十時

擇山大臣上漢口等ノ有
丹極形ノ有松ノ
甲ノ古事ナリ

三 月 會 計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
卅一					
總計					
殘高					
比較合計					

未丁 日 一 月 四 曜月

島津氏ノ兵琉球ニ入ル慶長十四
滿廿年ヲ丁年ト定ム明治九年

出動
上野一見
服力
馬車
上野
出動

申戊 日 二 月 四 曜火

幕府米利堅ニ購買スル所ノ甲鐵艦橫濱港
ニ至ル明治元

出動
上野一見
服力
馬車
上野
出動

酉己 日 三 月 四 曜水

憲法十七條ヲ定ム推古天皇十二年
丹後美作大隅ノ三國ヲ置ク和銅六年

出動
上野一見
服力
馬車
上野
出動

戌庚 日 四 月 四 曜水

琉球藩ヲ廢シ沖繩縣ヲ置ク明治十二年

出動
上野一見
服力
馬車
上野
出動

辛亥 日 五 月 四 曜 金

越後高田地大ニ震フ元寶曆

越後高田地大ニ震フ元寶曆
早志定推早梅内并紅梅
有花内地
相与起初梅陰箱内米
常山春山
麻布
永山武
大ハハ
△山
出

壬子 日 六 月 四 曜 土

佐久間象山吉田松陰ヲ獄ニ下ス元安政

佐久間象山吉田松陰ヲ獄ニ下ス元安政
早志定推早梅内并紅梅
有花内地
相与起初梅陰箱内米
常山春山
麻布
永山武
大ハハ
△山
出

丑癸 日 七 月 四 曜 甲

農商務省ヲ置ク明治十四

農商務省ヲ置ク明治十四
不平ニ十田ノ柿
可花徳山止野有梅
早梅

寅甲 日 八 月 四 曜 水

太田道灌江戸城ヲ築ク長禄元

太田道灌江戸城ヲ築ク長禄元
早梅
有花内地
相与起初梅陰箱内米
常山春山
麻布
永山武
大ハハ
△山
出

癸 曜 四 月 九 日 乙 卯

名主年寄等ヲ廢シ戸長ヲ置ク 明治 五

此等ノ事ハ
先般ノ如ク
申上ル所
ニテハ
先般ノ如ク
申上ル所
ニテハ
先般ノ如ク
申上ル所
ニテハ

水 曜 四 月 十 日 丙 辰

外人ノ北海道近海ニ來リテ漁獵スルヲ禁ス(三限ル以內) 明治 九

出勤
午後
九日
十日
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日

土 曜 四 月 十 一 日 丁 巳

京都大津間鐵路造築ノ議ヲ許ス 明治 十一

三月三日
出勤
午後
十一日
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日

金 曜 四 月 十 二 日 戊 午

武田晴信卒ス 元正

武田晴信卒ス
元正
午後
十二日
十三日
十四日
十五日
十六日
十七日
十八日
十九日
二十日
二十一日
二十二日
二十三日
二十四日
二十五日
二十六日
二十七日
二十八日
二十九日
三十日

土曜 四月十三日 己未

大納言藤原氏宗等貞觀格ヲ上ル貞觀十一

於去年四月廿七日... 出物内閣... 入内... 見有... 相入... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日... 三十一日... 四月十三日... 己未

日曜 四月十四日 庚申

元老院大審院ヲ置ク明治十八

於去年四月廿七日... 出物内閣... 入内... 見有... 相入... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日... 三十一日... 四月十四日... 庚申

月曜 四月十五日 辛酉

布哇國特命全權公使國書ヲ捧シテ參内ス明治十七

於去年四月廿七日... 出物内閣... 入内... 見有... 相入... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日... 三十一日... 四月十五日... 辛酉

火曜 四月十六日 壬戌

天皇鎌倉宮ニ謁ス明治十八

於去年四月廿七日... 出物内閣... 入内... 見有... 相入... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日... 二十一日... 二十二日... 二十三日... 二十四日... 二十五日... 二十六日... 二十七日... 二十八日... 二十九日... 三十日... 三十一日... 四月十六日... 壬戌

德川家康墓ス二元和
市制及町村制ヲ公布セラル明治廿一

水曜 四月十七日 癸亥

皇太后御即位

御即位之儀

專賣特許條例ヲ制定シ十八年七月一日ヨリ施行ス明治十八

水曜 四月十八日 甲子

午の吉野の湯

北條氏康上杉氏ヲ河越ニ破ル天文十五

金曜 四月十九日 乙丑

前權大納言藤原爲世續千載和歌集ヲ上ル二元應

於西決之而為証 久田

入又然也 物見ト云ク

此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村... 此乃山田中三村...

土曜 四月二十日 丙寅

北條氏康上杉氏ヲ河越ニ破ル天文十五

出部

河越之公使...

日 四 月 廿 一 日 丁卯

勅シテ贈正三位左近衛中將楠正成ノ嗣宇
ヲ湊川ニ營シ其子正行以下ヲ配祀ス
明治
元

西河不受伊何...
此方...
午後...
...

日 四 月 廿 二 日 戊辰

弘曆者ヲ除クノ外私ニ曆本ヲ販賣スルヲ
禁ス
明治
三

朝...
勤...
老...
...

叱辰

木

日 三 月 廿 四 日 火曜

詔シテ男女ニ令シテ悉ク結髮セシム
天武
十年

...

日 四 月 廿 四 日 水曜

府藩縣ニ令シテ普ク種痘ヲ行ハシム
明
治
三

...

未辛 日 五 廿 月 四 曜 衆

僧侶食肉娶妻蓄髮ヲ許ス 明治 五

僧侶食肉娶妻蓄髮ヲ許ス
明治五年
僧侶食肉娶妻蓄髮ヲ許ス
明治五年
僧侶食肉娶妻蓄髮ヲ許ス
明治五年

申壬 日 六 廿 月 四 曜 金

伊太利國特命全權公使朝見シ國書ヲ上リ
皇子「ウンベルト」位ヲ嗣クヲ報ス 明治 十一

伊太利國特命全權公使朝見シ國書ヲ上リ
皇子「ウンベルト」位ヲ嗣クヲ報ス
明治十一年

酉癸 日 七 廿 月 四 曜 土

大勲位菊花大綬章菊花章ヲ露國皇帝ニ贈ル 明治 十

大勲位菊花大綬章菊花章ヲ露國皇帝ニ贈ル
明治十年
大勲位菊花大綬章菊花章ヲ露國皇帝ニ贈ル
明治十年

戌甲 日 八 廿 月 四 曜 火

華族世襲財産法ヲ公布セララル 明治 十九

華族世襲財産法ヲ公布セララル
明治十九年
華族世襲財産法ヲ公布セララル
明治十九年

四 月 會 計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
総計					
残高					
比較合計					

六十五

亥乙 日 九 廿 月 四 曜月	
<p>京都府ヲ置ク 明治元 閏月</p> <p>新當ノ御上指ノ儀 十日前出 伊波白木 西郡菊川村 半休</p>	<p>京都府ヲ置ク 明治元 閏月</p>
子丙 日 十 三 月 四 曜火	
<p>退下大山 伊波白木 大山松方山田 大山</p>	<p>神佛諸宗ヲ混同シテ教院ヲ立ルヲ停ム 明治八</p>

六十四

北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ
得^{明治}

北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}
得^{明治} 北征ノ海軍賊ト函館港ニ戦ヒ賊艦一隻ヲ得^{明治}

能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}

能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}
能登安房石城石背國ヲ置ク^{養老}

詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}

詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}
詔シテ御名ヲ避諱セシム^{延暦}

上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}

上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}
上等裁判所ヲ東京大阪長崎福島ニ置ク^{明治}

火曜 五月五日 辛巳

皇城火アリ 明治十八 屯田兵條例ヲ定ム 明治十八

出勤 伊予一府... 山七...

水曜 五月六日 壬午

朝鮮使始メテ江戸ニ來ル 慶長十二

山縣... 下中二人... 山下...

木

曜 五月七日 癸未

電信切手(種)ヲ發行ス 明治十八

退下... 十日... 小宮...

水曜 五月八日 甲申

醬油稅則及菓子稅則ヲ制定シ 明治十八年七月一日ヨリ施行ス

七日... 十日... 十日...

十日... 六十九

本 曜 五 月 九 日 乙酉

富山佐賀宮崎三縣ヲ置ク明治十六

甘助

花見の途に花子ノ葉系在
接待方解地ナ

今有者内在ナ
北島島内日ノ
如ノ新花田島

金 曜 五 月 十 日 丙戌

米船一艘豊前田ノ浦ヲ過ク萩藩之ヲ砲撃
ス米船モ亦砲ヲ發ス利アラヌシテ退ク三文久

今比敵金剛(砲台)ノ
可視海島母(行方)ノ
伝報ヲ得不在
金村海軍提督員分
向來風動海

出 曜 五 月 十 日 丁亥

大阪神戸間ノ鐵道成ル明治十七

出勤

可被林者金田色
作手清木早
大八ヶ所相林一
0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

右再大八ヶ所相林一

日 曜 五 月 十 二 日 戊子

此敵艦ノ
出動者一先
西柳島不
子子子子子子子子子子子子

參議副島種臣ヲ魯國(ボシヤ)ニ差遣シ樺太島嶺界ノ專ヲ協議ス
明治四

五月十三日 己丑
出陣...
...

瑞西合衆國ト本條約成ル
明治二十
取引所條

五月十四日 庚寅
...

東叡山ノ賊ヲ討ス
明治元

五月十五日 辛卯
出陣...
...

列藩ノ私ニ關テ置テ禁ス
明治元

五月十六日 壬辰
出陣...
...

癸巳 日 七 十 月 五 日 曜 金

私設鐵道條例ヲ公布セラル 明治二十

日枝神社大ハ江上安橋
一着陸守社務出ル
高の山橋之別立事有ル
手前巡査者創一集れ
土待三田松方松方不其
又舞。本林長我坊祝
青山金舞。本林長我坊祝
月晦色本坊祝
海

甲午 日 八 十 月 五 日 曜 土

五稜郭ノ賊降り函館平定 明治二十

此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に
此市ノ各街に

未乙 日 九 十 月 五 日 曜 火

信長今川義元ヲ桶狭二敗ル 永祿三

出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上

申丙 日 十 二 月 五 日 曜 木

華士族ノ合家ヲ禁ス 明治九

出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上
出勤上

△

酉丁 日 一 廿 月 五 曜 木

楠正成六波羅兵卜四天王寺二戰ヒ大ニ之ヲ破ル 元弘 二

朝晴ハ午後
聖明西東ニ考ニ種同旨
大ハ好リ、或ヨリ事
出勤
多クハ、
招キ、
翌日、
山、
山、

戌戌 日 二 廿 月 五 曜 水

新田義貞鎌倉ヲ破ル 元弘 三 臺灣諸蕃降ル 明治 七

天、
西、
天、
伊、
尖、

亥巳 日 三 廿 月 五 曜 土

私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ賛成スルモノニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定セラル 明治 二十

出、
此、
本、
多、
現、
曹、
公、

子庚 日 四 廿 月 五 曜 金

應仁ノ亂是日ヨリ起ル 應仁 元

手、
予、
二、
此、
年、

申戌 日 一 月 六 曜 月

寛永通寶錢ヲ行フ 十三
 晴
 本屋芳公傳名物以持本
 出勤 伊太夫大木口
 新化 下山の初梅山川上、道小
 桂野田初家村木
 川上
 西御山田
 〇の予下
 〇の予下

酉己 日 二 月 六 曜 火

明智光秀織田信長ヲ弑ス 十正
 晴
 出勤 伊太夫大木口
 新化 下山の初梅山川上、道小
 桂野田初家村木
 川上
 西御山田
 〇の予下
 〇の予下

五 月 會 計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
殘高				
比較合計				

戊庚 日 三 月 六 隆

畿内等ノ國ニ令シテ茶ヲ植エ毎年之ヲ獻
ゼシム大弘仁

出勤 之方 冬

自東京の運出... 松方老翁... 自由業の運出... 之方老翁

子壬 日 五 月 六 隆

春分秋分二季ニ皇靈祭ヲ定ム 明治十一年

出都 之方 冬... 皇靈祭... 皇霊祭

亥辛 日 四 月 六 隆

後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス 元弘三

出勤 之方 冬... 後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス

丑癸 日 六 月 六 隆

政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ漸
次銀貨ニ交換ス 明治十八

出都 之方 冬... 政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換ス

甲寅 日 七 月 六 日 陰

商標條例ヲ制定ス明治十七

中村正造

乙卯 日 八 月 六 日 陰

田畑石高ノ稱ヲ廢シ之ニ代ルニ反別ヲ以テセシム明治十六

出勤
カガト

丙辰 日 九 月 六 日 陰

東京招魂社ヲ靖國神社ト改稱別格官幣社ニ列ス明治十二

松方

丁巳 日 十 月 六 日 陰

絶家期限(滿六ヶ月以内)ヲ制定ス明治十七

出勤
退下

木曜 六月十一日 戊午

日章ヲ以テ本邦總船ノ記號トス
元安政

出勤

某様之儀
此後御用
係ニ御用ノ事

此後御用ノ事
目録ノ事
不承

金曜 六月十二日 己未

英國ト本條約成ル
元安政

八行改

此後御用ノ事
目録ノ事
不承
此後御用ノ事
目録ノ事
不承

土曜 六月十三日 庚申

明智光秀士兵ノ爲ニ縱殺セラル
元正

雨ノ事

此後御用ノ事
目録ノ事
不承

此後御用ノ事
目録ノ事
不承

此後御用ノ事
目録ノ事
不承

日曜 六月十四日 辛酉

鳥取藩士大阪ニテ英船ヲ砲撃ス
元久

此後御用ノ事
目録ノ事
不承

此後御用ノ事
目録ノ事
不承

月 六 日 五 十 月 六 日 壬 戌

弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見ス
明治十

山王祭
弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見ス
明治十
弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見ス
明治十

日 六 十 月 六 日 癸 亥

朝香川ノ見舞ハ新定公
局モ達フハ 勅使代理
山王祭ノ見舞ハ新定公
渡ノ勅使代理ノ見舞ハ新定公
此ノ見舞ハ新定公
退下ノ見舞ハ新定公
山王祭ノ見舞ハ新定公
渡ノ勅使代理ノ見舞ハ新定公

月 六 日 十 七 日 甲 子

來ル七月一日ヨリ國內一般郵便ヲ開クヲ
令ス
明治五

弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見ス
明治十
弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見ス
明治十

日 八 十 月 六 日 乙 丑

幕府内田正雄等ヲ蘭國ニ留學セシム
文久二

幕府内田正雄等ヲ蘭國ニ留學セシム
文久二
幕府内田正雄等ヲ蘭國ニ留學セシム
文久二

癸酉 日 九 十 月 六 曜 金

始メテ年號ヲ紀ス 元大化
萬國郵便聯合條約ヲ頒ツ 十明治

出部

御位初度授け初度
御七代御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度

卯丁 日 十 二 月 六 曜 土

出部

陰天午後雨
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度

辰戌 日 一 廿 月 六 曜 金

白耳義ト假條約成ル 二慶應

御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度

御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度

巳己 日 二 廿 月 六 曜 土

御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度
御位初度授け初度

壬申 日 五 廿 月 六 曜 木

上野高崎間鐵道開業式ヲ執行ス明治十七

此の如く其の由り訪ふ
極位、拜賀式ヲ中々
出勤

癸酉 日 六 廿 月 六 曜 金

支那人竹溪紙幣ヲ贗造スルヲ以テ獄ニ下
シ尋テ之ヲ斬ス明治十七

庚午 日 三 廿 月 六 曜 火

郵便徽章ヲ改定ス明治十七

此の如く其の由り訪ふ
極位、拜賀式ヲ中々
出勤

辛未 日 四 廿 月 六 曜 水

阿媽港黒船二艘長崎ニ來リ交易ヲ請フ再
渡ヲ嚴禁シテ放チ遣ル正保十四

此の如く其の由り訪ふ
極位、拜賀式ヲ中々
出勤

日本銀行條例ヲ制定ス 明治十五年

山崎翁著

新聞條例讒謗律ヲ定ム 明治八年

山崎翁著 新聞條例

手稿の所見... 東洋の新聞

招魂社ヲ東京ニ營ス 明治二年

出動

招魂社... 招魂社... 招魂社...

新田義貞足利尊氏ト京師ニ戦ヒ利アラス 名和長年之二死ス 延元

朝高... 上段... 名母...

招魂社... 招魂社... 招魂社...

庚戌 日 一 月 七 曜 辰

大七二元軍ヲ敗ル 四 弘安 官報ヲ發行ス 十六 治
 新田義貞藤島二戰死ス 閏月 三
 出勤 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上

卯己 日 二 月 七 曜 辰

新田義貞藤島二戰死ス 閏月 三
 出勤 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上
 出動 昨夜軍艦部へ参上

六 月 會 計

日次	受方摘要		拂方摘要	
	円		円	
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
總計				
殘高				
比較合計				

郵便ヲ東京横濱ノ間ニ設ク明治四

とる所終末
長久保他と
約に在完
改又
不取
之と今

辰庚 日 三 月 七 曜金

米國前大統領グラント氏參朝ス明治十二

出動
無事
使
路
代
知
定

巳辛 日 四 月 七 曜木

元老院ヲ開ク天皇親臨シテ其儀ヲ行フ明治八

午壬 日 五 月 七 曜金

勝
延
本
根
そ

舊金銀貨價格表ヲ改正ス明治十八

是起
起
世
世
世

未癸 日 六 月 七 曜木

崇徳上皇兵ヲ舉ク保元

午前北國東
勝と負は服身は
返す所なし然れども

午後女...

源頼朝征夷大將軍トナル建久

下如目... 成

東京府下士民ノ神葬地ヲ定ム明治

出...

午後三時...
下如目...
...

...

詔シテ列藩ヲ廢シ悉ク縣トナス明治

大八...

勝あり...
...

壬辰 日 五 十 月 七 曜 木

岩代國磐梯山噴火ス
明治廿一年

癸巳 日 六 十 月 七 曜 木

日本武尊ニ命シテ東征セシム
景行天皇四十年

出勤

甲午 日 七 十 月 七 曜 木

詔シテ江戸ヲ以テ東京ト爲ス
明治元

臨幸シ。七時。磐梯山。噴火。出。勤。不。来。云々

乙未 日 八 十 月 七 曜 土

大學ヲ廢シ文部省ヲ置ク
明治四

予。前。在。學。務。司。任。在。任。中。出。勤。不。来。云々

日 三 廿 月 七 木 曜

澁入紙製造取締規則ヲ公布セラル 明治二十

出勤

肺病の患者は多し... 田中君は... 此の件は...

日 四 廿 月 七 金 曜

金穀及物品員數ニ關係スル一二十ノ文字ハ壹貳拾ノ字体ヲ用ヒシム 明治二十

花房の病の... 田中君は... 此の件は...

日 五 廿 月 七 土 曜

逆徒由井正雪誅ニ伏ス 慶安

朝庭前... 可なり... 此の件は... 乃今休暇...

日 六 廿 月 七 日 曜

京都大阪間ノ鐵道成ル 明治十九

京都大阪間ノ鐵道成ル... 乃今休暇... 此の件は...

辰甲 日七廿月七 曜

外國教員ヲ大學南校ニ聘シ列藩ヲシテ生徒ヲ貢進セシム 明治三

然味男
官制通則中改正心切アリ
出部
上野野多心切
日迄
午好此後入身先紀
晚的相在

午丙 日九廿月七 曜

京都二條城ヲ離宮ト定ム 明治十七

乃洋意を流
出部
部兵
花角
赤色
皇軍
海合
林就
此七
後所

巳乙 日八廿月七 曜

詔シテ全國地租ヲ改正シ地券ヲ設ク 明治六

味
出部
掛
初
授
三四
入
年

未丁 日十三月七 曜

地大ヒ二震ヒ諸國海溢ル 仁和三

山
後
西
自
勸

七月會計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
卅一					
總計					
殘高					
比較合計					

申戊 日 一 十 三 月 七 曜

諸皇族ノ祿米ヲ廢シ賄料ヲ賜フ

諸皇族ノ祿米ヲ廢シ賄料ヲ賜フ
六明治

乘馬飼養令ヲ定ム 明治十七

出勤
海山良兵衛之竹垣ヲ御尋

梅子良兵衛之竹垣ヲ御尋
常務理事兼務

己酉 日 一月 八 曜 土

午後三時若田君成、防備米
就達曰カマシセヨル
イマツタコトヲ申シテ
伊藤ヲ訪ス不在也
思召リ訪夜九時手洗

左大臣使、母死也

左大臣藤原時平等三代實録ヲ上ル 延喜

朝絶
海山良兵衛之竹垣
十時上野也砲考家族十人
連破不勝 山上和楽位
而三ノ上ノ書。午膳

西沢印 金木 彦佐 士海
下河内 印 彦佐 士海

戊庚 日 二月 八 曜 土

諸國大風洪水 寛治

辛亥 日 三月 八 曜 明

朝絶
出勤 途中島田、毛米
碑文ヲ受取。碑文
清心傳實母表
深也
大八
金井
森生
午後三時若田君成、防備米
就達曰カマシセヨル
イマツタコトヲ申シテ
伊藤ヲ訪ス不在也
思召リ訪夜九時手洗

江戸及ヒ近州洪水 元永

壬子 日 四月 八 曜 土

朝絶
海山良兵衛之竹垣
十時上野也砲考家族十人
連破不勝 山上和楽位
而三ノ上ノ書。午膳
西沢印 金木 彦佐 士海
下河内 印 彦佐 士海

散髮脫刀ヲ許ス明治

八月九日 丁巳

朝 何領子
碑文一段持来謝儀ナリ
新刻 遺言 兼日
公使 昨 乃 見 行
氏 名 延 位 公 上 行 兵 子 勝
其 爲 善 管 乃 碑 文 及 上 行
公 大 敬 奉 上 行

八月十日 戊午

尋常郵便ニ通貨封入ノ者ハ驛遞頭開封ス
ルヲ布告ス明治
出部
皇女 昭 隆 進 存 行 爲 案
御 覽 出 初 階 昭 隆
午 氏 碑 文 及 其 送 上 行
其 爲 善 管 乃 碑 文 及 上 行
其 爲 善 管 乃 碑 文 及 上 行
其 爲 善 管 乃 碑 文 及 上 行

八月十一日 己未

神佛教導職ヲ廢シ寺院住職ノ任免及教師
等級ノ進退ハ總テ各管長ニ委任ス明治

八月十一日 己未

神佛教導職ヲ廢シ寺院住職ノ任免及教師
等級ノ進退ハ總テ各管長ニ委任ス明治
神佛教導職ヲ廢シ寺院住職ノ任免及教師
等級ノ進退ハ總テ各管長ニ委任ス明治

八月二十日 庚申

離宮ヲ芝濱ニ置ク後芝離宮ト稱ス明治

想 銀 生 行 軍

諸國大風 元祚

今々々々々々々々々々々々
九由由由由由由由由由由
於勝伯於於於於於於於於
考考考考考考考考考考考

期限ヲ定メ工作使役等ヲ以テ負債ヲ償フノ外身軀ヲ典賣シテ
金銀ヲ借ルヲ禁ス 明治

南の起の碑文後成の
島田陸軍の御旗上格
法公使別出の此の
公使も石橋一本の
土乃大巨是昔切一乳
一丁の多由の居じ

英船長崎ニ來ル 文化
始テ國立銀行ヲ設ク 明治

勝任之功
上杉信之進
考考考考考考考考考考考

東京市區改正條例公布セラル 明治
廿一

把長政乃木以知母

丑乙 日 七 十 月 八 曜 土

源頼朝以仁王ノ令旨ヲ奉シ兵ヲ伊豆ニ起ス
治承 四

能南風早秋物未始吹
絶望信也小孝一未
午初秋枕舟中
大八意陽リ七月廿八日の九世
を伴沈運リ

寅丙 日 八 十 月 八 曜 火

戊辰己巳ノ際順逆ヲ誤リ戦死セシ者其親
族朋友ノ之ヲ祭祀スルヲ許ス
明治 七

出早起支路河 舟中
初三夜一已道高如世
十時初物有張色勇年
山溪川九十三至三時柑板
被字ナシ徳文ニ子下
被字ナシ徳文ニ子下

卯丁 日 九 十 月 八 曜 火

榎本武揚軍艦運送船八隻ヲ奪フテ品川海
ヲ去ル
明治 元

年和湯元リ徳子リ更リ
事不徳リ也
松本
生副長由本リ阿陽リ儀東
既解 如初リ三階リ窓
夕夕十初月出上山

辰戌 日 十 二 月 八 曜 木

始テ銀行紙幣ヲ發行ス
明治 六

松本地銀子ナシ
松本地銀子ナシ
松本地銀子ナシ

日一廿月八 曜木

内國勸業博覽會開場式二臨御 明治十

朝日雨日見血赤白紫平
物理伸張子織子
松本梅屋
家統子造子造子
出子

日二廿月八 曜土

魯國ト千島樺太交換ヲ批准セラル 明治八

晴着遠山雲野
湯信教東國祝
於西午到回午西地西
天用山雲起驟雷
東の梅屋白來計治
赤の梅

日三廿月八 曜金

出羽國ヲ置ク 和銅五

朝起陽部海淵湖一田
於と招と雨降續々秋花
大義陽の之松さり
可平手結末丸山り
い人の山と大老
如起坐里山白雲子
海山月然起巻靜

日四廿月八 曜土

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並二屋
號共改稱禁止ヲ布告ス 明治五

晴鮎竹根東一園
於一海午前一海午
華師山吹風雨
可平手結末
以後き山山白雲
据度重者其死去
兜天長政而北之人
赤の梅

癸酉 日 五 廿 月 八 曜 水

東海諸州海溢シ濱名湖壞ル 明應七
江戸大風雨 安政三

新起一法年所ぬお法

午後松本城跡跡跡
こく 陽より 品を及来

扱一法年所ぬお法

甲戌 日 六 廿 月 八 曜 水

聖誕日ヲ以テ天長節ト稱シ醮宴ヲ百官ニ
賜ヒ刑戮ヲ止ムルヲ布告ス 明治元

聖誕日ヲ以テ天長節ト稱シ醮宴ヲ百官ニ
賜ヒ刑戮ヲ止ムルヲ布告ス 明治元

松本城跡跡跡跡
午後松本城跡跡跡

扱一法年所ぬお法

乙亥 日 七 廿 月 八 曜 木

後醍醐天皇笠置山ニ幸ス 元弘元
今上即位 明治元

松本城跡跡跡跡

皇政ト云々
松本城跡跡跡跡

丙子 日 八 廿 月 八 曜 木

楠正成始メテ笠置山ニ至ル 元弘元
穢多非人等ノ稱ヲ廢ス 明治四

松本城跡跡跡跡
皇政ト云々
松本城跡跡跡跡

卯己 日一十三月八 曜

皇子明宮御降誕 明十二治

晴山色如畫於輝

丑丁 日九廿月八 曜

荒蕪不毛ノ地ヲ人民ニ賣與スルヲ許ス 明四治

於也今之熱有
於也今之熱有
於也今之熱有
於也今之熱有

寅戊 日十三月八 曜

朝鮮修信使參朝ス 明十三治

於也今之熱有
於也今之熱有
於也今之熱有
於也今之熱有

辰庚 日 一 月 九 曜 日 大

東叡山諸堂成ル 寛永 四

長政十餘均系へんモツト口切
 年及坐敷能也改跡際下
 桂事一書出
 持石一書出
 倉庫多煮

巳辛 日 二 月 九 曜 日 大

勅シテ跪禮匍匐禮ヲ停メ立禮ヲ用ヒシム
 天武天皇 官吏歳祿ヲ月給ト改ム 明治 四

け山ハ十五也
 此方用一俸米
 徳令食收一日湯を
 日湯掛
 湯掛
 湯掛

八月 會 計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
卅一					
總計					
殘高					
比較合計					

申甲 日 五 月 九 曜 木

是ヨリ先荷蘭阿珍ノ二國兵ヲ構ス軍醫監林
紀ヲシテ荷蘭軍ニ從ヒ其術ヲ講究セシム
明治 六

性明
此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ
此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ

酉乙 日 六 月 九 曜 金

皇子御名嘉仁ト被命明宮ト稱ス
明治 十二

此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ
此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ

午壬 日 三 月 九 曜 木

郵便爲換方法ヲ設ケ明年一月ヨリ施行ス
明治 七

此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ
此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ

未癸 日 四 月 九 曜 土

東京府下ニ家稅ヲ課ス
明治 三

此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ
此ノ書ハ
二ノ三ノ
以テ

戊丙 日 七 月 九 曜

源義仲兵ヲ起ス四治承
東西二京間ノ電信線成ル五明治

かゝる事ありし
不山皇皇
後村忠實
源義仲
王時馬事
信事
出陣
九月七日

亥丁 日 八 月 九 曜

明治ト改元一世一元ノ制ヲ定ム明治

勝伯
川口
江戸
丁丑

子戊 日 九 月 九 曜

午時ノ號砲ヲ設ク四明治

河之

丑己 日 十 月 九 曜

上杉輝虎武田晴信ト大ヒ二川中島ニ戦フ四永祿

河之
信之

午後根柢
大山
青山

壬辰 日 三十 月 九 曜

府縣ニ令シ賊徒ノ赦令ニ漏タル者ヲ放免
セシム
五明治

癸巳 日 四十 月 九 曜

僧侶ヲシテ姓氏ヲ稱セシム
五明治

庚寅 日 一十 月 九 曜

利息制限法ヲ定ム
十明治

利息制限法

辛卯 日 二十 月 九 曜

鳥取縣ヲ置ク
十明治

鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ
鳥取縣ノ置クニ由リ

甲申 日 五 十 月 九 曜

始テ田租法ヲ定ム慶雲三
徳川家康石田三成ヲ關原ニ破ル慶長五

乙未 日 六 十 月 九 曜

持節大使藤原常嗣唐ヨリ還ル承和六

出動... 藤原常嗣... 唐ヨリ還ル... 持節大使... 藤原常嗣... 唐ヨリ還ル... 承和六

丙申 日 七 十 月 九 曜

諸家系圖成ル寛永十八

今月八月十日... 諸家系圖成ル... 寛永十八

丁酉 日 八 十 月 九 曜

退下雨氣... 諸家系圖成ル... 寛永十八

子庚 日 一 廿 月 九 曜 卯

大正九年九月廿一日
神奈川縣ヲ置ク
明治元

神奈川縣ヲ置ク
明治元

丑辛 日 二 廿 月 九 曜 卯

斗升法ヲ定ム
始メテ天長節ノ儀ヲ行フ
明治元

斗升法ヲ定ム
始メテ天長節ノ儀ヲ行フ
明治元

戌戌 日 九 十 月 九 曜 卯

凡ソ訴訟曲ニ歸スル者ヲシテ其費ヲ償辦
セシム
明治五

凡ソ訴訟曲ニ歸スル者ヲシテ其費ヲ償辦
セシム
明治五

亥己 日 十 二 月 九 曜 卯

大藏省證券條例ヲ制定ス
明治十七

大藏省證券條例ヲ制定ス
明治十七

癸卯 九月廿三日 壬寅

私ニ銃砲彈藥ノ販賣ヲ禁ス 明治 五

秋の季... 天乳木... 総の... 秋の... 天乳木... 総の... 秋の... 天乳木... 総の...

癸卯 九月廿四日 癸卯

鹿兒島賊徒平ク 明治 十

勤... 鹿兒島... 勤... 鹿兒島... 勤... 鹿兒島...

癸卯 九月廿五日 甲辰

墨刑ヲ廢ス 明治 三

墨刑ヲ廢ス... 墨刑ヲ廢ス... 墨刑ヲ廢ス... 墨刑ヲ廢ス...

癸卯 九月廿六日 乙巳

王政復古ノ功臣ニ賞典祿ヲ賜フ 明治 二

王政復古ノ功臣ニ賞典祿ヲ賜フ... 王政復古ノ功臣ニ賞典祿ヲ賜フ...

日曜 九月廿七日 丙午

朝集不東一昨、秋上
由利公兵五、修神地
白山寺、鳥居、病、切
老、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此

日曜 九月廿八日 丁未

今上親王宣下 萬延
出動、無事
東路、五、五、五、五、五
作、此、此、此、此、此
標、此、此、此、此、此
大、此、此、此、此、此
持、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此

日曜 九月廿九日 戊申

大隅櫻島噴火ス 安永
東西本願寺へ勅額ヲ賜フ 明治
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此

日曜 九月三十日 己酉

府縣ニ令シ中小學校(學制ノ定數)營業ノ地
ヲ給ス 明治
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此
此、此、此、此、此、此

木曜 十月 一 日 庚戌

英國卜郵便爲換定約本日ヨリ施行ス 明治十四

出勤あり
長治月

出勤あり

金曜 十月 二 日 辛亥

江戸地大ヒニ震フ 安政二

出勤あり
同本有る
明正有る
出勤あり

計 會 月 九

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
總計				
殘高				
比較合計				

壬戌 日 三 月 十 日 曜

宮内省中式部寮ヲ廢シ更ニ式部職ヲ置ク
明治十七

晴。源の耳ヲ模シ不シ移シ
大福任平ノ末國舎仍自以
ハシ海軍製大術乃以之造
不來此以也
製業及之成學業
三府是國宗宗ノ深川三
祭此ニ因奉將祭之勝也
來勝乃深海ノ水也
幸亦之世田中光歌來各金
祭此村一田。地情ノ道能不却
ノリ

癸丑 日 四 月 十 日 曜

墓地及埋葬取締規則ヲ定ム
明治十七

晴
於此ノ文推敬所ノ所
清保路ニ至テ對境河邊江
節ノ意標ナリ大八
上杉ノ意伯ニ信ニ分テ上
之ヲ信テ有之ヲ若ク
之野ノ耳ニ至テ建碑武
切途有之ニオテ中勝
ノ製此ノノ古ノ
有之ニ信テ有之

甲寅 日 五 月 十 日 曜

藤原藤房官ヲ棄テ、去ル
建武元

如成乃大物
文ノ道ニ口黒田ヲ
出部
古ノ保和
税ノ
伊予保烟
山崎
古ノ保和

乙卯 日 六 月 十 日 曜

勅奏官華族及有位者ノ詞訟民事ニ係ルモ
ノハ直ニ本人ヲ召喚スルヲ停ム
明治十七

出部
税ノ
行成
醒德
退下
古ノ保和

辰丙 日 七 月 十 曜 水

北條氏綱里見氏ト鴻臺ニ戦フ天文七
農商ノ洋製船舶ヲ有スルヲ許ス明治二

情。新聞。漢口。船。撤。去。
橋。口。道。き。北。市。不。使。官。轉。任。元
仍。其。務。者。中。田。敏。成。氏。の。引。引。引。
果。其。説。直。其。り。

退下。黒。河。早。馬。之。使。
あり。税。所。来。り。り。り。り。
口。事。事。事。事。事。事。事。事。
不。材。材。材。材。材。材。材。材。

巳丁 日 八 月 十 曜 木

小笠原島ヲ東京府管轄ニ屬ス明治十三

出勤
退下。税。所。の。勝。出。者。
身。好。晚。方。及。食。事。

退下。税。所。の。勝。出。者。
身。好。晚。方。及。食。事。
先。女。子。在。行。税。所。来。觀。
畫。夜。食。事。未。才。地。所。
弘。子。在。行。税。所。来。觀。
老。公。宅。の。松。竹。花。草。

午戊 日 九 月 十 曜 金

開成學校新築成ル天皇親臨シテ開業式ヲ
行フ明治六

世。勤。心。の。山。の。山。
定。心。の。山。の。山。
退下。勤。心。の。山。の。山。
松。竹。花。草。の。山。の。山。
山。の。山。の。山。の。山。
山。の。山。の。山。の。山。
山。の。山。の。山。の。山。

未己 日 十 月 十 曜 土

始メテ樓閣ヲ起ス雄略天皇十二年

始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。
始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。
始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。
始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。
始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。
始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。
始。メ。テ。樓。閣。ヲ。起。ス。

百五十三

木曜 十月十五日 甲子

大將軍德川慶喜政權ヲ奉還ス 三慶應

情不... 出勤... 奉還... 禮謝... 功進... 冥加

金曜 十月十六日 乙丑

內大臣藤原鎌足薨ス 天智八年

出勤... 奉還... 冥加... 功進... 冥加

木曜 十月十七日 丙寅

天皇皇后華族養舍ニ臨ミ名ヲ學習院ト賜フ 明治

神嘗祭... 持不... 午後... 觀月... 妙步... 冥加

金曜 十月十八日 丁卯

持不... 午後... 冥加

冥加... 冥加... 冥加... 冥加

辰戌 日 九 十 月 十 曜

皇族ハ官ニ在ルモ職務ニ非サルヨリハ選スルニ本族ヲ以テシ
華族ハ六等官ニ準スルノ規則ヲ定ム 明治 四

Handwritten notes in cursive script, including a prominent red vertical line of text.

巳己 日 十 二 月 十 曜

工部省ヲ置ク 明治 三 閏月

Handwritten notes in cursive script, including a prominent red vertical line of text.

午庚 日 一 廿 月 十 曜

太政官中ニ參事院ヲ置ク 明治 十四

Handwritten notes in cursive script, including a prominent red vertical line of text.

未辛 日 二 廿 月 十 曜

都ヲ山城ニ遷ス今ノ京都是レナリ 延暦 十三

Handwritten notes in cursive script, including a prominent red vertical line of text.

水曜 十月廿三日 壬申

出動
岸田 廣 三 丹 三 戸
梅 坊 軒 十 八 冊 坊 坊
退下勝 坊 坊 坊 坊 坊 坊
二 三 坊 坊 坊 坊 坊 坊
張 之 坊 坊 坊 坊 坊 坊

水曜 十月廿四日 癸酉

出動
熊本縣士大野鐵平等黨ヲ聚メ火ヲ放チテ
鎮臺ヲ襲フ
輪 島 勝 十 人 洋 服 買
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊

熊本縣士大野鐵平等黨ヲ聚メ火ヲ放チテ
鎮臺ヲ襲フ
明治九年

金曜 十月廿五日 甲戌

車駕東幸沿道ノ孝子義僕等ヲ旌賞ス是ニ
至リ之ヲ全國ニ施行セシム
明治元年

坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊

土曜 十月廿六日 乙亥

前相模守北條貞時卒ス
應長元年

坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊
坊 坊 坊 坊 坊 坊

日曜十月廿七日丙子

寶樂印紙稅規則ヲ定メ十六年一月一日ヨリ施行ス明治皇居御造營落成ニ付自今宮城ト稱セラル 廿一

今日迄有限年ノ植木三人來
枝葉付林九人來

退下勝方安方ノ傍
退下勝方安方ノ傍
退下勝方安方ノ傍

月曜十月廿八日丁丑

普化宗ヲ廢ス明治四

今日迄有限年ノ植木三人來
枝葉付林九人來
今日迄有限年ノ植木三人來

退下勝方安方ノ傍
退下勝方安方ノ傍
退下勝方安方ノ傍

火曜十月廿九日戊寅

德川宗禰大日本史ヲ幕府ニ上ル享保五

德川宗禰大日本史ヲ幕府ニ上ル
德川宗禰大日本史ヲ幕府ニ上ル
德川宗禰大日本史ヲ幕府ニ上ル

水曜十月三十日己卯

前原一誠ノ位記ヲ視キ令シテ之ヲ討ス明治九

前原一誠ノ位記ヲ視キ令シテ之ヲ討ス
前原一誠ノ位記ヲ視キ令シテ之ヲ討ス
前原一誠ノ位記ヲ視キ令シテ之ヲ討ス

十月會計					
日次	受方摘要	円	拂方摘要	円	
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					
十三					
十四					
十五					
十六					
十七					
十八					
十九					
二十					
廿一					
廿二					
廿三					
廿四					
廿五					
廿六					
廿七					
廿八					
廿九					
三十					
卅一					
總計					
殘高					
比較合計					

百六十五

木曜 十月卅一日 庚辰

辦理大臣大久保利通清國ノ蕃地ノ處分ヲ
 訂約ス明治七

好晴如春

出勤
 午後五時向島散策
 植木ニシテ既殺リ喰ヒ夜ニ入リ帰ル
 西園橋西ニ散歩シ長知方ニ至リ
 上泉徳以リ高橋艦ニ至リ
 北海下リ難ク又肥前ニ重
 丁如島橋下ノ長歩

百六十四

日 十 一 月 三 日 癸未

延喜通寶ヲ鑄ル
延喜

天皇御
御前
御陽
御陰
御風
御雨
御雪
御霜
御露
御霧
御雲
御雷
御電
御雹
御雪
御霜
御露
御霧
御雲
御雷
御電
御雹

延喜通寶
鑄造
御前
御陽
御陰
御風
御雨
御雪
御霜
御露
御霧
御雲
御雷
御電
御雹

日 十 一 月 四 日 甲申

國內平定ヲ各國公使ニ告ケ局外中立ヲ解
カシム
明治
元

國內平定
各國公使
局外中立
明治
元

日 十 一 月 一 日 辛巳

天保通寶ヲ行フ
天保
八
新潟及夷港ニ外國人居留ヲ定ム
慶應
三

天保通寶
行
天保
八
新潟及夷港
外國人居留
定
慶應
三

日 十 一 月 二 日 壬午

郡區ノ制ヲ定ム
明治
十一

郡區ノ制
明治
十一

火曜 十一月五日 乙酉

日本鐵道會社ノ創設ヲ許可ス
明治十四

快晴
出勤
本郷下等
見立
上野
梅園
丹
...

水曜 十一月六日 丙戌

治河使ヲ置キ大ニ水利ヲ修治スルヲ布告ス
明治十四

今日
下等
...

木曜 十一月七日 丁亥

平民ノ官ニ在ル者其家人ヲ士族ニ準ス
明治十五

出勤
高
...

金曜 十一月八日 戊子

水星太陽ヲ經過ス
明治十四

依野
藤園
...

癸巳 日三十月一十 曜金

文德實錄成ル元慶三
西征戰死者ヲ招魂社ニ祭ル明治十

雨
大隈公使
新井公使
紅毛船
井上公使
西征戰死者ヲ招魂社ニ祭ル

晚乃勝之妻之持来以子化生
不來少少運

甲午 日四月一十 曜木

僧侶ノ托鉢ヲ禁ス明治五

トテ其法身也

出動
托鉢ノ善法場也

夕陽ノ紅雲作心 亞細亞
一田寺沙屋唐人 亞細亞
法蘭西傳ノ字片 亞細亞
鄭君存之 李修年 府令也

未乙 日五十月一十 曜日

神武天皇即位ノ年ヲ以テ紀元ト爲ス明治五

快晴
盛張師師也

大才力ノ可成者也
七降流一止也
佛壇ヲ中即移也

子孫ノ改姓也
トシテ菊花ノ形ニ爲る也
萬子柿ナリ佛壇也

丙申 日六十月一十 曜月

釋月照薩摩海ニ投シテ死ス安政五

快晴

出動
佛壇ヲ中即移也

上海ノ平安也
トシテ菊花ノ形ニ爲る也

丑辛 日一廿月一十 曜

始メテ藤原基經ヲ以テ關白ト爲ス仁和
平將門反ス天慶

晴

出都吉川男等被リ
藤原之盛衰ノ久集テ
退下勝ヲ存得テ老氣ク
乃昔匠ノ長クモ

新嘗祭
雨約方降
七名ノ空
職山石料三十
折長以方人

寅壬 日二廿月一十 曜

富士山噴火ス寶永 全國ヲ分テ三府七十
二縣トナシ郡縣ノ制ヲ定ム明治

所ノ長クモ

有取所九十四村別稅
五十四年自定
長クモ

大ニ電報
長クモ

卯癸 日三廿月一十 曜

英吉利公使米利堅公使李漏生公使朝見并
二東幸ヲ賀ス明治

新嘗祭

雨約方降
七名ノ空
職山石料三十
折長以方人
於成事虛祖先
歷敷用者
折考起出井
折考起出井
折考起出井

辰甲 日四廿月一十 曜

寶永山涌出ス寶永

折考起出井

折考起出井

折考起出井

巳乙 日 五 廿 月 一 十 曜 火

神武天皇ヲ皇城內ニ祭り紀元ヲ定ムルヲ告ク明治

大八身神戶到着ノ電報ヲ

出報

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ
大八身神戶到着ノ電報ヲ
大八身神戶到着ノ電報ヲ

午丙 日 六 廿 月 一 十 曜 火

辨理大臣大久保利通清國ヨリ歸朝ス明治

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ

未丁 日 七 廿 月 一 十 曜 水

詔シテ車駕西還成功ヲ伊勢太廟ニ告ク明治

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ
大八身神戶到着ノ電報ヲ
大八身神戶到着ノ電報ヲ

申戌 日 八 廿 月 一 十 曜 土

幕府江戸鐵砲洲ヲ以テ外國人居地ト爲シ居民ノ其家屋ヲ貸與スルヲ許ス慶應

大八身神戶到着ノ電報ヲ

大八身神戶到着ノ電報ヲ
大八身神戶到着ノ電報ヲ
大八身神戶到着ノ電報ヲ

酉己 日 九 廿 月 一 十 曜 金 日

東京女子師範學校開業式ヲ行フ
八 明治

此の報告書
大正九年十一月十日
東京女子師範學校開業式
報告書
大正九年十一月十日
東京女子師範學校開業式
報告書

戌庚 日 十 三 月 一 十 曜 土 日

土地賣買讓渡規則ヲ定ム
十 明治

土地賣買讓渡規則
大正九年十一月十日
土地賣買讓渡規則
大正九年十一月十日
土地賣買讓渡規則
大正九年十一月十日

十一月會計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
総計				
残高				
比較合計				

癸丑 日 三 月 二 十 曜

亥辛 日 一 月 二 十 曜

詔シテ全國徴兵ノ制ヲ設ク 明治 五

本日ヲ以テ明治六年一月一日ト定ム 明治 五
大八極漢(多) 上秋(黄)来(ル)
十(回)
午(好)有(休)来(ル) 未(得)建(碑)建(碑)
丁(好)有(休)来(ル) 未(得)建(碑)建(碑)
七(買)入(リ)
大(八)極(漢)多(多)

本日ヲ以テ明治六年一月一日ト定ム 明治 五
大八極漢(多) 上秋(黄)来(ル)
十(回)
午(好)有(休)来(ル) 未(得)建(碑)建(碑)
丁(好)有(休)来(ル) 未(得)建(碑)建(碑)
七(買)入(リ)
大(八)極(漢)多(多)

子壬 日 二 月 二 十 曜

寅甲 日 四 月 二 十 曜

僧澤庵叔ス年七十三 正保 二

大(八)極(漢)多(多)
出(勤)有(叙)任(有)
大(八)極(漢)多(多)
出(勤)有(叙)任(有)
大(八)極(漢)多(多)
出(勤)有(叙)任(有)

豊臣秀吉造ル所ノ京都方廣寺大佛殿火ア
リ慶長 七
大(八)極(漢)多(多)
出(勤)有(叙)任(有)
大(八)極(漢)多(多)
出(勤)有(叙)任(有)
大(八)極(漢)多(多)
出(勤)有(叙)任(有)

本

二十日 五月 乙卯

始メテ冠位十二階ヲ定ム推古天皇十一年
詔シテ令義解ヲ施行ス元承和

七の十の事 忌日 又 系

午刻上殿掃除佛壇
香山山馬了義系系前記
尚焼香多事
午刻大八の初巻山并好行
長の巻の初二の山
焼香の巻七の巻多事

水戸黄門光國卒ス元祿十三

二十日 六月 丙辰

水戸黄門光國卒ス元祿十三
初巻山并好行
長の巻の初二の山
焼香の巻七の巻多事

初大八封贈徳孫及泊島
川親等事

月

二十日 七月 丁巳

兵庫及大阪互市場ヲ開ク慶應三
陸奥ヲ五國ニ出羽ヲ二國ニ分ツ明治元

出勤多事
今日杜不危任仰在官正丈
西前抱抱杯就
植本
夜入
下八張湯
糶所

水

二十日 八月 戊午

勅使ヲ發シテ東北平定ヲ太廟ニ告ク明治元

雨
東車
長政
長政
長政

未己 日 九 月 二 十 曜 水

皇族ノ少壯者ニ命シテ海陸軍事ヲ習ハシム
明治

雨未所晴暑騰氣動 即德大
園庭乃竹益
土方大臣以解任之
出勤天氣居之乃晴
催睡服
下八坊使買物
退下建公死ヲ指揮之
而遊
夜下八坊來 橫濱ノ
法也ノ浴所始テ

申庚 日 十 月 二 十 曜 水

親王二世已下賜姓ノ制ヲ立ツ
明治

晴
昨日出勤 每位二千名
昨夜一雨名古倉堤防破壊
村浸没セリ
言三万圓 岐阜愛知西野救濟費
三百二十四万五千四百十一
退下
大八七里付八坊來
晚方黒田ハ後ヲ

酉辛 日 一 十 月 二 十 曜 金

平將門下野ヲ陥ル
天慶

好晴暖氣多
大八森ハ高輪屯ヲ訪フ
出勤
早引ニ官中ヲ引取
朕乃里苗ヲ訪大八同行
輕クアノ里苗ヲ草邊
未リ酒ヲ出サシ
孫七名ヲ入来ニ
加判

戌壬 日 二 十 月 二 十 曜 土

司法省法學校正則科ヲ文部省ノ所轄ニ屬
シ東京法學校ト稱ス
明治

後三時郡古久保野
四人招ニシテ
勝伯モリ所
元氣ナリ
頭靜
貴及

大審院裁判所職員考績條例ヲ定ム

明治十七

朝経師... 廣橋... 勤儀... 曲從... 遊説... 著方... 晚餐... 供...

淺野長矩ノ遺臣等吉良義英ヲ殺ス

上杉... 今日... 方針... 退下... 紅葉... 不...

東海鎮守府ヲ相摸國三浦郡横須賀ニ移シ

横須賀鎮守府ト改稱ス

富士山噴火ス

出勤今日... 池田... 吉井... 大八... 香川... 宗...

木曜

二十月十七日 丁卯

百官ノ靴履上廳ヲ許ス 明治 四

出勤

三時退下駿河屋、小松宮へ来り、
宮中、日茶、茶、拜、高、高、別當、
白、代、官、雨、雪、ノ、見、林、友、聲、ノ、見、
有、村、之、家、出、見、舞、
三山、三、水、ム

金曜

二十月十八日 戊辰

華士族卒ノ農工商業ヲ營ムヲ許ス 明治 四

出勤

午後三時、青井、牧野、西郷、
招、飲、夜、十、時、次、
大、久、保、利、和、断、
元、氣、
十、七、

木曜

二十月十九日 巳巳

日本後記ヲ上ル 承和 八

出勤

勝、
年、
一、
心、

金曜

二十月二十日 庚午

華族就學規則ヲ定メ明治十八年ヨリ施行 明治 七

今日議院解散

日二十月一廿未辛

參議伯爵井上馨ヲ特派全權大使トシテ朝鮮國へ差遣ス明治十七

大八副島西郷牧野

日二十月二廿申壬

從前ノ職制ヲ廢シ内閣總理大臣及諸省大臣ヲ置キ内閣ヲ組織ス明治十八

宮内省制改正後尋到九等
出勤 西陸下ニ洋服地賜
養育ヲ叙信上席ノ事ヲ
可授多シ中並アリ勅授モ
時代傳スルニ於テ
午前大八川村勝西顧向
勝又ハ
大八ホト對的今日冬
至一陽來復

日二十月二廿酉癸

内閣改制ノ詔ヲ發セラル明治十八

晴出勤
勝ト見舞造ハス事ヲカステテ今日
出勤アリト云フ
今日雷雨勝トモ出勤ノ下日トハ
議會亂雜ノ事但し樺山海軍
大臣減額舊者維新未固權
ヲ毀傷セサルハ薩長ノ力ナリト
著方惠集大八家内皆由
集晚飲

日二十月四廿戌甲

朝辭ニ分次疎程切震
才將大禮服出勤牧野忠房
汝按男官官在奉授成
士時退出
大官來可祝ニ益確
德爾來ヲ裁ヲ整理ハ
夜會計ヲ見ル
鉄道管收業不没

癸亥 日 五 廿 月 二 十 曜 陰

源賴義源齊賴ヲシテ安倍貞任ヲ討セシム
天喜 保安條例公布セラル 明治二十

出勤可ハ義院ニ申シテ
一ラ後藤大木津奥等説明鉄
道買収案否決セリ
井上清以口トシテ
選挙権整理後日本橋島屋
買島
黒田、揮毫ニ振テ酒ニ鑑テ
無上流被贈

子丙 日 六 廿 月 二 十 曜 土

延喜式成ル 五 長 徳川家康生ル 十一

昨夜子針以テ議員解散義院
停會
出勤者ハ醫師叙任位被
思田、ヒスヒノ聲ニ破テ
午後之待半次、里道其馬
一及、流ハ、白若糸也
刺士時、至急、宮内省
以、ん、ま、今、日、の、事、ハ、
戸、三、田、針、平、三、針、尖、の、水、
出、十、三、錢

丑丁 日 七 廿 月 二 十 曜 陰

火薬取締規則及爆發物取締規則ヲ制定ス
明治十七

今日ハ休暇廢止
出勤内閣大臣、國會議員
奏上ヲ讀ム
露南州、領土、十五日、出
今日、宮内、省、事務、所、長、
桂、大、印、在、野、中、ヲ、見、
大、八、角、三、三、三、三、三、見、
芥、尺、八、天、三、三、三、三、三、
長、政、林、著、者、リ、勝、流、使、
謝、儀、也、

寅戌 日 八 廿 月 二 十 曜 土

徴兵令ヲ改正ス 明治十六 新聞紙條例出版條例寫真版權條例ノ改
正及版權條例脚本條例ヲ公布セラル 明治二十

好朝朝霜頃時侯、道、
九時前大禮服出勤
池田政和自山澤、
此、の、華、族、族、令、後、不、
十時宮内大臣拜授成リ
波、探、男、力、御、
印、志、使、者、女、政、
ゆ、る、親、と、井、市、内、月、
思、信、何、兄、不、不、
信、中、北、行、と、外、

木曜 二十三月十一日 辛巳

天皇賞親佩式ヲ行フ又賞牌ヲ諸親王ニ授ケラル明治八年

木曜 二十月廿九日 己卯

百官ヲシテ歳終ノ慶賀ヲ申セシム明治二年

百官ヲシテ歳終ノ慶賀ヲ申セシム
明治二年

木曜 二十月三日 庚辰

百官ヲシテ歳終ノ慶賀ヲ申セシム
明治二年

明治廿二年總計

月次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一月				
二月				
三月				
四月				
五月				
六月				
七月				
八月				
九月				
十月				
十一月				
十二月				
總計				
殘高				
比較計				

十二月會計

日次	受方摘要	円	拂方摘要	円
一				
二				
三				
四				
五				
六				
七				
八				
九				
十				
十一				
十二				
十三				
十四				
十五				
十六				
十七				
十八				
十九				
二十				
廿一				
廿二				
廿三				
廿四				
廿五				
廿六				
廿七				
廿八				
廿九				
三十				
卅一				
總計				
殘高				
比較合計				

明治二十一年十一月九日出版
印刷局

定價金八錢五厘

萬年

所得稅

高

四十七四七十三錢五分

一

錢十三四八十六錢五分三月十八日納

五十枚幣代
〇二四三十五
〇摺付

多給三十二兩五錢

